

令和5年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R5年度計画		実施状況		評価				
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価			
1	高齢者が文化芸術活動に参加し担い手となる取り組み	●高齢者(65歳以上)や認知症の方を対象にした事業	2回	3回実施	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>■若年性認知症介護サービス会社GARSP㈱・横浜市荏田地域ケアプラザとの共催により「アート+認知症 やさしい美術鑑賞会」を実施し、認知症の方とその家族や介護者が施設に鑑賞に訪れた。</li> <li>□取組紹介 &amp; 美術鑑賞体験会 2回</li> <li>□アート+認知症 やさしい美術鑑賞会 2回</li> <li>■共催 GARSP㈱・横浜市荏田地域ケアプラザ</li> <li>□アート+認知症 やさしい美術鑑賞プログラム</li> <li>□やさしい美術鑑賞会「サポーター養成講座」</li> </ul>	【成果】 文化芸術をより身近にすることを目標に、子ども、子育て世代向けをはじめとし、地域に暮らす外国人や障害のある方、認知症患者やその介護者、高齢者など、さまざまな層に向けた取り組みを開催しました。結果、当館が今後も多様な方を迎えるにあたって行うべき情報発信、受け入れ体制の構築などの経験を積むことができました。また、それらの体験を通して多様な価値観を参加者間で共有し、地域において他者受容性を高める、きっかけづくりとなっています。 参加者の意欲も、新型コロナウイルス感染症前の状況に戻りつつあり、予約制による人数のコントロールや、参加者が安心して活動できる環境は維持しながら、募集人数を前年度より増やして実施しました。	【評価できる点】 ・市民のためのプログラムや「あざみ野カレッジ」、子どもや子育て世代を対象とした「親子のフリーゾーン」や「あざみ野子どもぎやらい2023」造形プログラム等の実施、地元NPOと連携して「外国人親子向けのフリーゾーン」を開催し、外国人の方へ向けて英語版での案内チラシ作成や動画を公開に活かしたことや、個別支援級等に通う子どもとそのご家族を対象とした「親子で造形ビュウ」や障害のあるアーティストの作品を展示する「フェローアートギャラリー」を展開するなど、幅広い属性の方へ向けたプログラムを計画し、着実に実施していただきました。		
		●在住外国人ファミリー支援団体と協働し、事業に参加しやすい仕組みを模索	1回	1回実施	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■支援団体NPO法人Sharing Caring Culture との協働</li> <li>□外国人親子のためのフリーゾーン開催 1回</li> <li>□アンケート実施 1回</li> <li>■やさしい日本語・英語の2種類のチラシ配布</li> <li>■やさしい日本語・英語の2種類の紹介動画をYouTubeで公開</li> </ul>			・多くの事業で参加者・来館者目標を超える成果をあげるなど、多くの方に文化に触れる機会を提供したことを評価します。	
		□外国人親子向けフリーゾーン開催	1回	1回実施	B					
		■親子のフリーゾーンの英語ちらし作成	作成	作成	-					
		■英語版・やさしい日本語版動画を公開	実施	実施	-					
		●市民のためのプログラム＝使命2に記載								<ul style="list-style-type: none"> <li>■注力した取り組みとして、文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」助成金による「認知症の方とその家族・介護者のための対話型鑑賞会」が挙げられます。当館のある青葉区は平均寿命が全国トップクラスであります。そうした環境で、高齢者や認知症患者が病状や環境の変化に左右されることなく、その家族・介護者などの関係者といっしょに美術館やギャラリーへ出かけて、新しい経験をその楽しみを享受することを目指した事業です。</li> <li>前年度から取り組みをスタートさせ、今年度が2年目となりますが、前回の振り返りを活かし、2回の紹介と体験会、専門家による座学講座を2回、また全3日間のサポーター養成講座を開催後、「やさしい美術鑑賞会」を2回行いました。一般からも他文化施設担当者からも定員いっぱい参加があり、市内に担い手を増やすことができました。</li> <li>開催時は、当事者の方はリラックスした様子で参加ができ、また介護者からは普段見られないような活き活きとした姿を見られて良かったと、現場の様子や感想からは、参加者の変化が見て取れます。</li> <li>市外からの視察もあり、この事業に対する社会的関心の高さとあわせて事業を開催する意義を強く感じています。</li> <li>■子ども向けプログラムについては、安心して活動できる場と細やかな配慮の提供を前提に、前年度よりも参加者の定員数を増やすとともに活動の幅を拡げました。そのことにより参加者の満足度向上につながりました。</li> <li>フリーゾーン、子どものためのプログラム、ファミリーワークショップ、横浜市芸術文化教育プラットフォームとも、目標回数を実施することができました。</li> <li>■子ども向けプログラムについては、安心して活動できる場と細やかな配慮の提供を前提に、前年度よりも参加者の定員数を増やすとともに活動の幅を拡げました。そのことにより参加者の満足度向上につながりました。</li> <li>フリーゾーン、子どものためのプログラム、ファミリーワークショップ、横浜市芸術文化教育プラットフォームとも、目標回数を実施することができました。</li> <li>その他、夏休みの子ども事業「あざみ野子どもぎやらい2023」では、前年度に引き続き造形活動の場を「ラボ」に見立てて活動を楽しんでもらいました。今年度は、コレクションにもある映像(アニメーション)をテーマとしたブースを新設し子どもたちにアニメーションの仕組みを体験いただきました。また最終日にはあざみ野ダンス・ラボを開催し、ダンス・ワークショップとパフォーマンスを通じて身体表現の多様性を味わっていただきました。</li> <li>■外国人の方々へのアプローチでは、地元のNPOと連携して「外国人親子のためのフリーゾーン」を実施。これまで、当館に訪れたことのない親子にご参加いただけました。これを通じて、長年当館で続けてきた同プログラムをどのように外国人家族も含めて包摂的に伝えていくかを得ることができました。これを活かして、やさしい日本語および英語による動画やチラシ、ホームページを作成しています。</li> <li>■あざみ野カレッジでは、同シリーズをテーマを変えて複数回実施することにより参加者の知への好奇心を満足させるプログラムを提供できました。また、臨時休館を逆手に取り近隣施設と連携して開催したプログラムでは、顧客の新規開拓に繋がりました。</li> <li>■広報面では、昨年度リニューアルしたスマートフォンにも対応できる仕様のホームページが少しづつ効果を発揮してきています。※スマホからのアクセスが7割を超える状況</li> <li>■障がいのある方を対象にした事業については、前年度に引き続き、様々な感染症等に気を付けながら柔軟に対応しました。造形ビュウでは、親子のフリーゾーンと似た内容のプログラムながら、障がいのある子どもたちが落ちついて安心して体験できるよう、申込数を絞って実施するなど工夫をしています。また、個別支援級、特別支援学校等を受け入れる学校プログラムは、教員からの期待が高い取組みで、募集枠を超える申込があります。</li> <li>フェローアートギャラリーは、今年も、青葉区民文化センターフィリアホールフィリアホール通路での出張展示(エクステンション)が実現。当館とは異なる場所で開催することで、作家の活動や当館の取組みに出会う機会を増やしています。</li> <li>■日曜昼間の無料コンサートであるロビーコンサートについては、クラシックやJAZZ、地域の太鼓演奏団体などを招き、8回開催しました。あざみ野ロビーピアノ・プロジェクトは、センター北も閉まり、利用者が少ない時間帯の有効活用です。SNSでの発信もあり、徐々に新規利用者も増えてきました。</li> </ul>
		□文化芸術部門	4回	4回実施	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>□あざみ野カレッジ「文化芸術部門」年4回 計150名</li> <li>・5/27 「展覧会の新しいフォーマット アナログニズムって何？」講師 天野太郎 41名</li> <li>・7/22 「マルセル・デュシャンとレディメイドー創ることについて考える」講師 中尾祐哉 43名</li> <li>・10/14 「マルセル・デュシャンとレディメイド、そしてチェスへー選ぶことについて考える」講師 中尾祐哉 45名</li> <li>・11/11 女性画家シリーズ「マリロー・ローランサン 1920年代パリの女性文化と前衛」講師 沼田英子 21名</li> </ul>				
		□地域資源部門	3回 ※うち1回のテーマはカメラコレクション	3回実施	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>□あざみ野カレッジ「地域資源部門」年3回 計55名(未達)</li> <li>・9/10 「アナログレコードで聴く クラシック音楽の録音技術とその発展」講師 芥川純一 29名</li> <li>・1/20 「かやぶき屋根プロジェクトって何？」講師 横口重 9名</li> <li>・2/10 「写真が可視化したもの～横浜所蔵カメラ・写真コレクション探訪」講師 主任学芸員 日比谷安希子 14名 会場 横浜市歴史博物館</li> </ul>				
		□年間参加者数	220名	205名	B					
		●企画展「あざみ野子どもぎやらい2023」開催	1回	1回実施	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>□7/28-8/6「あざみ野子どもぎやらい2023 ぞうけいラボ」2,893名</li> <li>展示室をアートの研究開発所「ラボラトリー」に見立て「特別なジュースをつくらう」「のびのびお絵かきしよう」「ジャンглをつくらう」「絵をうかしてみよう」のコーナーとつくり、子どもたちが研究員となって参加。</li> <li>■アニメーション作家・進地美鈴さんの映像作品を展示</li> <li>■アートサポーターの参加 のべ23名</li> <li>■時間制入場予約システム導入</li> <li>■8/5・6 関連企画「あざみ野ダンス・ラボ」を開催し、夏休みならではの賑やかさの創出とダンスを通じて表現の多様性を提示</li> <li>■地元のダンス名門校・市ヶ尾高校ダンス部を招聘しパフォーマンス</li> <li>□参加者合計120名</li> <li>・8/5親子でK-POPを踊ってみよう 10組21名</li> <li>・8/5中高生コンテンポラリーダンス 9名</li> <li>・8/5姿勢教室 22名 ※</li> <li>・8/5中・高生HIP-HOP 5名</li> <li>・8/6市ヶ尾高校ダンス部パフォーマンス</li> <li>観覧者 63名</li> <li>※赤レンガ倉庫1号館共催</li> </ul>				
●小学校カメラ写真ワークショップ					<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣小学校2校に出張し5年生に写真のワークショップを開催</li> <li>□ワークショップ 2校(のべ12回)開催</li> <li>□参加児童数 のべ416名</li> <li>写真ワークショップの成果展として、子どもが撮影した写真に自作の俳句を添えた作品を展示</li> <li>□10/7-10/15展示「写真と俳句展～小学校5年生たちのまなざし」1回</li> <li>□来場者 609名</li> <li>□子どものためのプログラム 計13回講座 19回開催</li> <li>■子ども向けプログラム 10講座13回 217名</li> <li>■あざみ野ファミリーワークショップ 3講座のべ6回 137名</li> <li>※2/18「空き箱カメラをデコろう」については、臨時休館中だったため山内地区センターにて開催</li> <li>□横浜市芸術文化教育プラットフォーム 4校実施</li> <li>・10/2,3,5 新吉田小(5年生4クラス、121名)</li> <li>山田裕介/リサイクルアート※1</li> <li>・10/30,11/13,24 田奈小(個別支援級、16名)</li> <li>川崎和美/ダンボールアート</li> <li>・11/6,24,29 高田小(個別支援級、17名)</li> <li>南條健吾/ダンス</li> <li>・11/29,30,12/1すみれが丘小(5年生2クラス、58名)</li> <li>山田裕介/リサイクルアート ※2</li> <li>リサイクルアート資材協力:※1 古河電工パワーシステムズ(株)、(有)かなめ ※2古河電工パワーシステムズ(株)</li> </ul>					
□ワークショップ	2校	2校実施	B							
□成果の展示「写真と俳句」	1回	1回実施	B							
□展示来場者数	600名	609名	B							
●予約制だよ！親子のフリーゾーン										
□年間延べ参加者数	2,268名	3,277名	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>□予約制だよ！親子のフリーゾーン</li> <li>月3回 休館中を除く 計33回開催</li> <li>参加者数 933組3,227名参加</li> <li>□平均満足度 4.89(5点満点)</li> </ul>						
□創作の場提供	年36回	33回実施	B							
●子どもまたは家族のためのプログラム										
□造形プログラム開催	年13講座	13講座実施	B							
□参加者数	235名	58組354名	A							
●横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業										
□コーディネーター校数及び参加者数	4校	4校実施	B							

使命1  
横浜市北部地域の子どもや高齢者、障害者、外国人、様々な経済事情にある方、性別にかかわらず幅広い属性の方へ、社会的包摂の視点を踏まえ、美術を中心とした文化に触れる機会を提供し、豊かな感性を育むとともに、多様な価値観を受け入れる文化の醸成に貢献する。

令和5年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

5	障がいのある方を対象とした事業	●親子で造形ピクニック				【親子で造形ピクニック(個別支援学級や特別支援学校に通う親子が対象)年間11回 参加者数:74組244名 ※臨時休館の2月は実施なし  □造形活動による学校支援「学校のための造形プログラム～障がいのある子どもたちのためのアトリエプログラム」 個別支援学級や特別支援学校の、学校単位での造形体験の場を提供。40名を超える場合は2回に分けて開催。 年間10校11回開催 参加者数:263名 ■青葉区小学校校長会にてアトリエ学校利用について案内したほか、学校ポストを利用し北部4区小学校および市内特別支援学校に案内。 R6年度募集に28校から応募があった。	【課題】 ■成果にあげたように、それぞれ特性のある住民に向けて寄り添ったプログラムを開発することで、あらゆる人に当館のプログラムを体験していただいています。一方で、世代や特性を超えて、人々が一堂に会し、交流するプログラムはあまりできていません。他者受容性という意味において、ある程度交わりあう必要があり、そうしたプログラム開発ができていないのは課題です。 ■中学生～大学生がプログラムに取り込めておらず、その世代へのアプローチが課題となっている。	【更なる取組を期待する点】 ・開催した各種講座などにおいて、参加者の意見等を丁寧に聞き取り、ニーズの分析・課題の明確化を行うことや、波及効果を検証し、今後の企画に生かしていただくことを期待します。 ・各種事業の企画において、継続して地元企業等との連携を絶やすことなく、次年度以降も状況に合わせて連携の深化、アウトリーチの強化により、文化芸術を核として、引き続き地域活性化に資する活動を行うことを期待します。 ・世代や特性を超えて交流する新たなプログラムの開発に期待します。
		□個別支援級等に通う子どもとその家族対象の造形活動開催	月1回(年12回)120名	74組244名	A			
		●学校のためのプログラム						
		□造形活動による特別支援学校等を対象にした造形活動の場の提供	10校	11校実施	B			
		■青葉区校長会での広報	実施	実施	-			
	■ホームページによる広報・公募	実施	実施	-				
6	施設を訪れたすべての方々にアートの息吹を	●企画展「あざみ野コンテンポラリー」VOL.14=使命2に記載				□Showcase Gallery 1Fエントランスで行うシリーズ小展示。当館の特色にフォーカスしたテーマで開催 ・アーティスト×横浜市所蔵カメラ・写真コレクション 鈴木のみ展 7/15-9/18 ・黄金町エリアマネジメントセンター連携企画 太田るなシヤワ展 9/23-12/10 ・シリーズ陶の表現 進藤詩子展 3/16-5/26 □展示作業の風景とアーティストインタビューの動画をYouTubeで公開 3本	□フェローアートギャラリー 年3回 2Fラウンジで行うシリーズ小展示 ・福岡左知子展 4/26-6/25 ・たんぽぽの家演劇チーム「HANA PLAY」展 9/27-11/26 ・牧島美帆展 11/29-1/21 □フェローアートギャラリー・エクステンション 年1回 ・毛利秀勝展 6/29-9/3 青葉区民文化センターフィリアホール外廊下(無料エリア)で展示 ※フィリアホール共催	●Welcome! ロビーコンサート 1Fエントランスロビー(10/22のみレクチャールーム、1/7アートプラザ屋外) ■クラシックを中心に、ジャズ、和太鼓等による無料の演奏会を開催 □年8回、来場者数 計888名 ※男女共同参画センター横浜北と共催 ※12/23 DST-NEXTと新共催事業 ※9/10、10/22 横濱ジャズフロムナード連携事業 ※10/22 横浜みなとみらいホール協力事業
		●企画展「あざみ野フォト・アニュアル2024」=使命2に記載						
		●Showcase Gallery						
		□エントランスロビーでの展示	3回	3回実施	B			
		□ショーケースギャラリーの準備段階・作家インタビューをYoutubeで配信	3本	2回実施	C			
		■黄金町エリア・マネジメントとの連携	実施	実施	-			
		●フェローアートギャラリー						
		□障がいのあるアーティストの作品を2Fラウンジで展示	3回	3回実施	B			
		■フェローアートギャラリー・エクステンション(他施設でのアウトリーチ展示)の検討・調整	実施1回	1回実施	B			
		●WELCOME! ロビーコンサート!						
		□エントランスでの無料コンサート開催	7回 700名	8回実施 888名	A			
		●情報発信の充実						
		■スマホ対応のウェブサイトを活かし即時性のある情報発信の実施	実施	実施	-			
□情報誌「アートあざみ野」発行	年3回	3回発行	B					
■主催事業、イベント、周辺施設の出来事をSNSで紹介	実施	実施	-					

令和5年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R5年度計画		実施状況		評価						
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価					
使命2 市内外に向けて、カメラ・写真コレクションを活かした映像分野の拠点となるとともに、現代のアーティストの発信拠点となる。また、多様な美術分野(新旧含めた多様な時代、平面・立体、版画や陶芸等の様々な技法等)への様々なアプローチを用意することで、美術に対する関心を喚起する機会を創出し、北部地域の文化活動人口(文化活動支援者も含む)の増加に貢献する。	1 横浜市内所蔵カメラ・写真コレクションの活用	●企画展「あざみ野フォト・アニマル2024」 <input type="checkbox"/> 開催	1回	実施なし	-	【成果】 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションを軸に、横浜の映像分野の拠点として、継続的活動を展開。写真・映像表現に加え、現代アートや、市民向けの講座も実施、鑑賞、ワークショップなど多彩な切り口で美術体験のプログラムを実施することで、映像文化や美術に関心を高める機会をつくっています。 ■横浜市所蔵カメラ・写真コレクションについては、日常的な維持管理と調査研究に取り組むほか、データベースのWEB公開を行っています。そのコレクションを活用する企画展「あざみ野フォト・アニマル2024」は、エントランス天井パネル交換工事による臨時休館があり、企画をそのまま来年度に延期しました。閉館中はWEB展覧会「みどころキューブ」を活用し、コレクションをWEB上で紹介し新たなコレクション活用の可能性を示すことができました。 ■近隣小学校(山内小学校、慶應義塾横浜初等部)への出張プログラムを実施。貸出したカメラで自分が撮った写真に俳句を合わせるワークショップを行い、完成した作品をギャラリーで展示しています。学校で写真の説明をする際に、当館のコレクションを活用。触れるきっかけづくりです。 ■教師のためのアニメーションのワークショップを馬車道にある東京藝術大学大学院映像研究科の教授を招いて開催。アニメーションを通じた教育について学び、映像を学校の授業に活用できるような普及しています。 ■現代アートは、企画展「あざみ野コンテンポラリーvol.14」として「長谷川繁 1989-」を開催しました。約40年にわたり絵画を表現手段としてきたアーティスト・長谷川繁の未発表作品群から、1989年から92年までのドイツ滞在中の連作やオランダ滞在時期の大型作品、そして近年の自在なモチーフの組み合わせによる作品まで、その一連の仕事に俯瞰し「豊かな謎」を展開する展示となりました。長谷川氏が取り上げる作品の題材はどれもユニークかつ豊かな謎を孕んでおり、来場者(鑑賞者)に貴重で楽しい機会を提供できました。 ■誰もが気軽に見られる場である玄関で行う「ショーケースギャラリー」は、3つのテーマを設け、同時代を生きる若手アーティストに依頼、それぞれ「カメラ・写真コレクション」「黄金町エリアマネジメントとの連携」「陶芸」と当館の特色にあわせて作家・作品を選び、多くの来館者に楽しんでいただきました。 ■企画展やショーケールの関連イベントとして、アーティストトークや対談、当館で展示等を行ったアーティストのインタビュー動画をWEBに公開・アーカイブすることにより、アーティストやその作品について理解と関心を深めていただくことができました。今年度は、コンテンポラリー展、ショーケースギャラリーの作家3名、市ヶ尾高校ダンス部メンバーのインタビュー、アート+認知症動画2本の計6本を、YouTubeで公開しています。 ■講座、市民のためのプログラムは、毎回定員を上回る申込があり、気軽に美術や工芸をはじめめる機会として好評をいただいています。臨時休館中は日程を前後にずらして全講座を予定通り開講しました。	●カメラコレクション関連講座(あざみ野カレッジ内) ●小学校写真カメラワークショップ=使命1に記載 <input type="checkbox"/> 教師のためのプログラム ※横浜市教育委員会共催 <input type="checkbox"/> 教師のためのアニメーション制作プログラムワークショップ <input type="checkbox"/> 横浜市立中学校アニメーションフェスティバルについて共催 ●カメラ・写真コレクション保存・研究・Web公開 <input type="checkbox"/> ホームページ内紹介ページ・コレクションデータベース閲覧件数 ●Gallery in the Lobby ●城西国際大学による(iPad)展示解説データ提供受	1,500名 4.6以上 1回 30名 1回 2回 40名 1回 実施 1,100件 4回 実施	1回 2回 1回 実施 5915件 4回 実施	- - B B - A B -	臨時休館のため開催なし 企画内容を次年度に延期 □8/1 教師のためのワークショップ「アニメーションで教えるために〜つくり・楽しみ・考えよう〜」対面2回 計50名 講師 布山タルト、荻原健一 ※横浜市教育委員会と共同主催 □1/20横浜市中学校アニメーションフェスティバル 上映会 出品校8校 会場 横浜市庁舎アトリウム 講師 井上仁行、端地美鈴 市立中学校美術部の生徒による作品発表会/講師手配・進行サポート、ステッカー作成・配布 ※横浜市教育委員会・横浜市立中学校教育研究会美術部会、横浜市立学校総合文化祭実行委員会との共同主催 ■収蔵作品の状態確認・調査・整備の実施、不正確な目録を調査、補完して修正。 ■カメラのデータ登録が完了 □閲覧件数 16,838件 (検索トップと個別資料ページの閲覧数合計) 5,915件 (カメラコレクションサイトアクセス数) ■データベース整備 随時 ■経常的な作品の状態確認・修復 ■収蔵環境調査の実施 ■外部からの貸出、熟覧への対応 ■9/19-3/31 デジタルアーカイブを活用したWEB展覧会「みどころキューブ」を公開(コレクションから約50点を紹介) ■横浜美術館紀要に担当学芸員がコレクションについて寄稿 □情報誌「アートあざみ野」に「Gallery on the Magazine」としてコレクション紹介の記事連載 年3回 □WEBに過去11回分の記事を遊って掲載 □Gallery in the Lobby(小展示) 総合受付横で年4回展示 ・カメラのしくみ 5/6-5/28 ・小型軍用カメラ 9/30-10/22 ・ファインダーがないカメラ 10/25-11/15 ・カラフルなカメラ 3/12-3/31 コンテンポラリー展は出品作家変更があり実施なし ■フォト・アニマルは臨時休館による展覧会延期により実施なし ■Gallery in the Lobby 展示鑑賞コンテンツの制作 4回 ■東京都写真美術館、日本カメラ博物館、横浜美術館などの専門機関とは日常的に連携し、コレクションの管理等について情報交換 ■カメラ・写真コレクション英語版データベースの運営	【評価できる点】 ・施設の工事による臨時休館のため、計画していた「あざみ野フォト・アニマル2024」を中止しましたが、代替事業としてWEB展覧会「みどころキューブ」でのカメラ・写真コレクションの紹介を行い、横浜の映像分野の拠点としての発信を継続できました。 ・近隣小学校への出張プログラム「写真に俳句を合わせるワークショップ」において、カメラ写真コレクションを活用して生徒へ説明し、コレクション周知のきっかけとしての一翼も担いました。 ・現代アートの企画展「あざみ野コンテンポラリーvol.14」は長年作風を変えながら、さまざまな絵画の表現手段で描いてきた長谷川繁さんの作品を紹介し、今日に至るまでの作品展示を通して幅広い来場者が楽しめる構成となっており、1,700人を超える来場者に繋がりました。 ・「ショーケースギャラリー」は、工事足場設置のため2階の階段横へ展示場所を移動した時期もありましたが、カメラ・写真コレクションを活用したり、若手アーティストと連携した作品展示を行い、年間を通して館の特色に合わせた展示が行えました。 ・YouTubeでのアーティスト等のインタビュー動画を目標を超える6本作成・発信し、企画展やショーケースの関連イベントとして、WEBに公開・アーカイブすることにより、アーティストやその作品について理解と関心を深めていただくとともに、企画展等へ足を運ぶきっかけづくりにも役立っています。 ・講座、市民のためのプログラムは、臨時休館により、開催講座の日程を変更しながら、全講座予定通り実施できたことを評価します。毎回定員を上回る申込がある人気講座であり、市民へ継続して美術や工芸をはじめめる機会を提供できました。
		2 現代アートの発信拠点	●企画展「あざみ野コンテンポラリー」 <input type="checkbox"/> 開催 10月 <input type="checkbox"/> 来場者数 <input type="checkbox"/> 来場者アンケートによる平均満足度 ●Showcase Gallery 展示=使命1に記載 ●アーカイブ&アーティストインタビューをWEBで公開 ●市民のためのプログラム <input type="checkbox"/> オープンスタジオ「着衣クロッキー」「ソードクロッキー」(1コース4回) <input type="checkbox"/> 参加者アンケートによる平均満足度	1回 1,500名 4.6以上 5本 5コース 20回 250名 4.6以上	1回実施 1,788名 4.65 6本 5コース 20回実施 325名 4.5		B A B A A B	□10/7-10/29「あざみ野コンテンポラリーvol.14 長谷川繁 1989-」来場者1,788名 平均満足度4.65(5点満点) 【関連事業】 ■アーティストトーク 86名 10/7 ■対談 長谷川繁、加藤泉(美術家) 40名 10/21 ■担当学芸員によるギャラリートーク 佐藤直子(担当学芸員) 1名 10/9 □アーティストインタビュー動画 YouTubeで公開 計6本 ・長谷川繁、鈴木のぞみ、太田るなシャワ ※進藤詩子はR6年度公開 3本 ・市ヶ尾高校ダンス部 1年 1本 ・アート+認知症動画 2本 ■市民のためのプログラム【使命1 再掲】 「あざみ野オープンスタジオ」と「講座」があり、さまざまなプログラムを用意し市民の「やってみたい」に応える講座。毎回応募数が定員を上回り抽選になる人気。 □あざみ野オープンスタジオ 5コース・各4回 のべ20回 のべ参加者 325名 ・「着衣クロッキー」A・Bコース(1コース4回) ・「ソードクロッキー」A・B・Cコース(1コース4回) □平均満足度 4.5(5点満点)	【課題】 カメラと写真のコレクションや、現代アートのプログラムは当館の特徴であり、定着しており、業界の評価も高いですが、まだまだ市民、地域の方々には浸透していません。展覧会の内容を伝えるようにする、広報先などを工夫することで、来場者もまだまだ伸ばせるでしょう。全使命を通した課題として、地域へのさらなる周知や来館促進につながる方策を引き続き検討していきます。 【更なる取組を期待する点】 ・WEB展覧会「みどころキューブ」について、どのページが多くクリックされたかなどのアクセスログを分析し、分析した結果を今後の活動や事業へ活かして行くことを期待します。 ・引き続き、企画展やカメラ・写真コレクションの保存・研究を行いつつ、地域の方々への周知方法や館としてのブランディングについて、更なる検討を重ね、館の特徴である所蔵しているカメラ・写真コレクションの活用や現代アートの発信拠点としての役割を果たしていくことを期待します。			

令和5年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R5年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
3	市民の皆さんが主体となって文化芸術活動に関わる取組 (使命1:幅広い市民の皆様「やってみよう!」を応援)	□ワークショップとして講座開催(透明水彩、デッサン、工芸、写真、絵画技法)	5コース 22回 290名	6コース 20回実施 301名	B	□講座 年6講座20回 のべ参加者286名 ・はじめてのデッサン 静物と人物 全5回 のべ92名 ・漆の技法 蒔絵と螺鈿 全3回 のべ41名 ・ショーケースギャラリー鈴木のぞみ展関連ワークショップ「日常にある穴で写真を撮ってみよう」1回 12名 ・はじめての透明水彩 全5回 のべ83名 ・はじめての陶芸 全4回 のべ43名 ・ショーケースギャラリー進藤詩子展関連ワークショップ「紙と陶に描く「いつかどこかの風景」全2回 のべ30名 □平均満足度4.93(5点満点)			
		□参加者アンケートによる平均満足度	4.6以上	4.9	B				
1	文化芸術を媒介として、分野を越えた協働により地域コミュニティの課題に向き合います	<p>●地域課題に対して、芸術文化の手法によるアプローチの可能性を模索し、他の団体等との協働の中から課題に向き合うきっかけや気付きの機会を提供</p> <p>□「やさしい街あざみ野実行委員会」への参加、協働によるイベント、勉強会、来館者への活動情報提供</p> <p>●財団他施設との協働、連携</p> <p>□横浜ジャズブロンナードとの共催コンサート(ロビーコンサート)</p> <p>□財団他施設との共催事業(あざみ野カレッジ)</p> <p>●青葉区他施設との協働、連携</p> <p>□山内図書館との広報連携</p> <p>●北部4区の文化施設と協働</p> <p>□みどりアートパーク、フィリアホールとの事業又は広報連携</p>	協働する団体 5団体	7団体	A	<p>■「あざみ野認知症の人にやさしい街プロジェクト」(やさしい街あざみ野実行委員会)メンバーとしての参加し、当施設の周知やイベントの告知、情報収集を行うことができた。</p> <p>■在田地域ケアプラザ・GRASP棟との共催により「アート+認知症 やさしい美術鑑賞会」を実施。参加者募集、当日の参加手配とフォロー、振り返りのアドバイスをいただいた。</p> <p>■在田の慶義塾横浜初等部、あざみ野の山内小学校の2校で、図工の授業として「カメラと写真ワークショップ」を展開。</p> <p>■ワークショップの成果展を小学校2校の合同で開催。当ギャラリーが媒介となり公立と私立の学校の地域でのつながりを創り、関係者の来館を促した。</p> <p>■青葉区のダンス名門校・市ヶ尾高校ダンス部に声をかけてパフォーマンスを行ってもらい、活動の紹介につながった。</p> <p>■フェローアートギャラリーのアウトリーチとして青葉区民文化センターフィリアホール外通路にて作品3点を展示。令和3年度に続き3回目。【再掲】</p> <p>□フィリアホールとの協力・共催事業 2回 ・9/10 あざみ野カレッジ アナログレコードで聴くクラシック音楽の録音技術とその発展」フィリアホール副館長が講師を勤める ・6/29-9/3フェローアートギャラリー・エクステンション 毛利秀勝展 フィリアホール外廊下 □横浜市歴史博物館との協力事業 2回 よこはま縁むすび講中として開催 ・1/20あざみ野カレッジ 講師 横浜市歴史博物館学芸員 橋口豊 ・2/10あざみ野カレッジ 講師 当館主任学芸員 日比谷安希子 □委員会でのちらし配布と説明 1回</p>	実施	実施	-
			1回	2回実施	A	<p>□横浜ジャズブロンナード連携 2回 Welcome! ロビーコンサート ・JAZZ名盤のオーディオコンサート 9/10 ・みなとみらいスーパービッグバンド公演 10/22</p>			
			1回	2回実施	A	<p>□大佛次郎記念館との連携事業 1回 ・大佛次郎没後50年記念「猫と大佛次郎展」2F 7/20-9/10 □赤レンガ倉庫1号館との連携事業 1回 ・あざみ野ダンス・ラボ「姿勢教室」共催 8/3 □横浜美術館との連携 1回 ・あざみ野ダンス・ラボ エクステンション「憧れて踊る 憧れを語る」 主席学芸員トーク(動画による出演) 8/20</p>			
			1回	1回実施	C	<p>□フォト・アニュアル中止により図書館でのパネル掲出なし(未達) ■山内地区センターで子どものプログラムのアウトリーチ実施 1回</p>			
			1回	2回実施	A	<p>■みどりアートパーク ダンス事業のピアレビュー実施 ■フィリアホール あざみ野カレッジ講師依頼</p>			
2	市民が自ら課題に気づき考えを深める契機を創出します	<p>●認知症の方と家族のための鑑賞会</p> <p>□企画展の対話型鑑賞会実施</p> <p>■地域ケアプラザとの協働</p> <p>□「予約制だよ!親子のフリーゾーン」親子で造形ビクニック参加者への文化芸術参加環境に関するアンケート調査</p> <p>□ワークショップ、講座参加者への文化芸術参加環境等に関するアンケート調査</p> <p>□「あざみ野カレッジ」終了後、「生涯学習」に対するアンケート調査</p> <p>●「あざみ野カレッジ」オンライン配信(ハイブリッド型)</p> <p>●アートサポーター活動</p>	2回	2回実施	B	<p>■認知症の方とその家族、介護者のための対話型鑑賞会の開催 2回【再掲】 □アート+認知症 やさしい美術鑑賞会 2回 ・1/17 26名 ・1/19 15名</p> <p>■在田地域ケアプラザ・GRASP棟との共催により「アート+認知症 やさしい美術鑑賞会」を実施。参加者募集、当日の参加手配とフォロー、振り返りのアドバイスをいただいた。</p> <p>□アンケート実施 毎回</p> <p>□アンケート実施 毎回</p> <p>□アンケート実施 毎回</p> <p>□費用対効果の観点から実施なし(未達) ■今後のカレッジ登録の特典として2/10講座についてショート動画を作成、R6に配信予定</p>			
			2回	2回実施	B				
			7回	7回実施	B				
			1回	1回実施	C				

【成果】  
横浜北部は、全国でもトップクラスの平均寿命の高さを誇る地域で、高齢者は年々増加傾向にあります。高齢化をマイナスとみるのではなく、年を重ねながら豊かな生活を送るのに、地域でどう手を取り合うか、それに文化施設がどう役割を果たすのかに挑戦しています。

■使命1にも記述したアート+認知症、「対話型鑑賞会」プログラムは、2年目の実施にあたって、地域ケアプラザや若年性認知症通所施設と地域内協力を一層深めることにより、鑑賞会や講座を一緒に考え企画を充実させることができました。

■地域の約20の障がい福祉団体と連携するフェローマルシェは、コロナウイルス感染症が5類に移行となり活気が戻ってきました。文化施設が地域の様々な方が交わる場となるべく、継続していくことが大事なプログラムです。

■アートサポーターについては、前年度同様、あざみ野こどもぎやらい2023)において活動いただきました。ひきつづき活動の場を模索し提供していきます。

【評価できる点】  
・昨年度から地域コミュニティへの課題に対する文化芸術面からのアプローチを実現するためのベース作りとして関係施設や団体との連携を強化し、「認知症の方とその家族・介護者のための対話型鑑賞会」プログラムについては、鑑賞会や講座の内容を関係施設等と一緒に企画し実施に至った点を高く評価します。

・障害福祉団体と連携したフェローマルシェは年6回、参加団体延べ42、来館者7,500人を超え、多くの来館者にも繋がりました。

・フェローアートギャラリー及びフェローアートギャラリーエクステンションも計画通り実施でき、障がいの者の芸術活動の場を支援したことを評価します。

【更なる取組を期待する点】  
・「アート+認知症 やさしい美術鑑賞会」について、施設に来ることが負担となる人に対しても、アウトリーチで実施する等の取り組みを期待します。

・関係機関との協力・連携を深めながら多くの方への理解が得られるよう、さらなる取組を進めていくことを期待します。

【課題】  
前年度にスタートした「対話型鑑賞会」を「アート+認知症 やさしい美術鑑賞会」と名称を変えより多くの方に参加いただけたが、当事者の関心と理解を得ていくためのさらなる工夫が必要であり、さまざまな状況にある方に寄り添った鑑賞のあり方を検討し丁寧に取組を進めていきます。



令和5年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R5年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
使命5 利用者本位の運営を行うとともに、文化施設としての専門性を発揮し、北部地域の市民の皆さんに親しまれる施設となる。	1 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底	■東急田園都市線沿線文化施設ピアレビューや定期的な情報交換の実施 ・フィリアホール ・みどりアートパーク	実施	実施	-	■みどりアートパーク(長津田)、フィリアホール(青葉台)との隔月で3館オンラインミーティングを実施し情報共有・意見交換、また拡大版としてかなっくホール、あじさいプラザが参加。 ■古河電工パワーシステムズ株が取り組む緑化プロジェクトに、地域団体へのアプローチと広報面で協力。地域メディアへの掲載に繋がった。		
		■感染防止ルールの徹底(手指消毒、検温、マスク)	実施	実施	-	■利用者とは打ち合わせ時に横浜市文化施設ガイドラインの確認 ※5月に5類移行 ■交通系、クレジット、電子マネー、PayPay、楽天ペイ導入済み ■親子のフリーゾーンでは支払の約60%がPayPay利用	【成果】 「横浜市文化施設ガイドライン」をベースに、来館者が安心して利用できるよう、スタッフの経験と知見を活かして施設運営を行いました。5月にコロナウイルス感染症が5類に移行となり、日常が戻ってきた年でした。従前以上に、利用者・来館者に「また来たい」「また来たい」と思っていただけによる、ホスピタリティあるコミュニケーションにより満足度の高いご利用につながることを意識し、アンケートやヒヤリングによるご意見を運営に反映させるよう努めました。事務効率化・ダブルブッキングや個人情報漏洩といった事務処理ミスを防ぐため、11月から施設予約管理にシステムを導入しました。	【評価できる点】 ・新型コロナウイルス対応により、内容の変更等に対応した運用となりましたが、工夫を凝らし可能な範囲で地域の文化芸術活動の発表の場を提供しました。特に、施設貸出に当たり、施設スタッフが展示に応じたきめ細やかな利用調整、アドバイス等を行うことで、満足度の高い展示環境を提供したことを評価します。
		■三密を回避する展示のアドバイス ■講座料・参加費の支払いにキャッシュレス決済を導入継続	実施	実施	-			
	2 利用者ニーズの把握	■施設利用者・来館者にアンケート実施し、スタッフに情報共有	実施	実施	-	■アンケート ・展示室:利用終了日までに実施 ・アトリエ:継続的利用団体は年度末、単発利用団体は都度実施 ・イベント来場者:アンケート配布またはQRコードによるWEB上でアンケート回答 ■アンケートデータは質問項目を集計しイベント開催から1週間以内にスタッフ全員に閲覧して情報共有を図った。 ■意見聴取(ヒヤリング) 展示室利用者は打ち合わせの際に実施 アトリエ利用者はアンケートに替えて実施	・施設予約に際し、新システムの導入により、事務処理ミスの防止及び業務効率化に繋がった点を評価します。 ・工事による臨時休館に伴う変更及びキャンセル・返金対応について、工事期間利用者への丁寧な説明や代替案の提示等により、利用者から理解が得られ、大きなトラブルなく対応できたことを評価します。	
		■展示室・アトリエ施設利用者にヒアリング	実施	実施	-		・今年から優れた企画に対してサポートする「新共催」制度を導入し、2事業を採択して開始しました。	
	3 施設貸出の考え方	■公平・公正な施設貸出	実施	実施	-	■記載のとおり実施	来館者・利用者の方々に「また来たい」「また使いたい」と思っていただけよう、ホスピタリティあるコミュニケーションを心がけ、アンケートに寄せられた意見等は、イベント開催から1週間以内にスタッフ全員に閲覧、情報共有を図り運営に活かしました。	
		■専門性の高いサポート、ホスピタリティを提供	実施	実施	-	■記載のとおり実施。利用団体の高齢化を考慮し 展示および撤収作業について安全な作業への目配りを行った。	11月より施設予約システム「いつでも貸館」を導入し、ダブルブッキングの防止を含めた業務効率化を図りました。	
		■新規貸館利用者の創出に向けてSNSを活用	実施	実施	-	■WEBでの貸館情報の発信、SNSを活用し施設情報や貸館のようすを発信 ■11月より施設予約システム「いつでも貸館」導入し、ダブルブッキングの防止を含めた業務効率化を図った	「臨時休館」による施設利用のキャンセル・返金についてはガイドラインおよび横浜市と緊密に連絡を取って適切に対応しました。	
		■施設貸出における事務処理ミス防止のため施設予約システムの導入	実施	実施	-		感染症の状況と利用者の利便性に配慮し、アトリエの利用抽選会は来館ではなく事前希望を聞いて集約、重複案件のみ抽選会実施に変更しました。	
	4 施設貸出の流れと取り組み	■展示室:1週間単位で利用受付	実施	実施	-	■展示室:1週間単位(火曜日～月曜日、平成28年10月に改定、最長2週間まで)で利用を受付 ※利用まで3か月を切る空室については、日単位で貸出を実施。	今年度より「新共催」制度を導入し、優れた企画に対して当館が共催しサポートする制度をスタートさせました。	
		■時期の追った空き室については1日単位で受付	実施	実施	-	■空き情報を即時HPで公開 ■感染症の状況と利用者の利便性に配慮し、アトリエの利用抽選会は来館ではなく事前希望を聞いて集約、重複案件のみ抽選会実施に変更 ■専門性に基づいた的確なアドバイスの実施		
		■空き情報を即時ホームページ上で公開のほか、SNSで広く情報発信する。	実施	実施	-			
5 利用者へのコミュニケーションとサポート	■専門性に基づいた 展示構成アドバイス	実施	実施	-	■記載のとおり実施 ■初めての利用者には搬入から搬出まで立ち会って対応や作品搬出搬入・設営業者の相談			
	■コンシェルジュとして相談に応じる	実施	実施	-	■利用団体に対しての広報協力 ・HPへ「展示室・アトリエスケジュール」掲載 ・「ヨコハマ・アートナビ」、「マガカル」等への情報提供			
	●利用団体に対しての広報協力							
	■SNS、ホームページでの情報掲載	実施	実施	-	・利用期間中の展示の様子をHP、SNSで発信 ・情報誌『アートあざみ野』への情報掲載 ・エントランスロビーのラックにチラシの配架			
	■「ヨコハマ・アートナビ」、「マガカル」等への情報提供	実施	実施	-	■アトリエ継続的利用団体への備品保管ボックス貸出を継続実施 ■今年度より要領を定め「新共催」制度を導入し、優れた企画に対して当館が共催しサポートする制度がスタート	【課題】 コロナウイルス感染症が5類に移行となり、展示室の利用は、前年度に比べると回復しつつありますが、利用者の高齢化など利用率の低下が想定され、新規利用者の開拓が必要な段階になってきています。施設利用のルールは踏まえつつも、積極的な貸出し提案や、共催の可能性、利用者のニーズとの折り合いなどを探っていくことが引き続きの課題です。	【更なる取組を期待する点】 ・利用団体の高齢化等に伴う活動力低下による施設利用への影響について、新規利用者の開拓などの対策を検討しながら持続可能な施設運営を目指していただくことを期待します。	
	■館内ラックに催事ちらし掲出	実施	実施	-				
	■情報誌『アートあざみ野』への情報掲載	実施	実施	-	対象事業 ・8/20あざみ野ダンスラボエクステンション 「憧れて踊る 憧れを語る」 ・12/23ロビーコンサート パイプオルガン鼓笛隊			
	■アトリエ定期利用団体への備品預かりボックス貸出の継続	実施	実施	-				
6 文化施設としての専門性を発揮するための人材配置とその育成	■財団法人材マネジメント・ポリシーを遵守	実施	実施	-				
	■事業担当と施設運営担当について、適性とバランスを考え配置	実施	実施	-	■記載どおりに実施			
	■OJT及び各種研修による事業担当職員及び施設運営担当職員の育成	実施	実施	-				

評価項目		R5年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設管理・環境維持・警備等一共有部分について		■新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底(=使命5に記載)					【成果】 利用者の皆さんに安心・安全で快適な場を常に提供するために、センター横浜北・設備管理会社である西田装美、警備担当者週一回の定例ミーティングを行い、施設の日常的な環境維持や予防的修繕対応に努めました。	【評価できる点】 ・男女共同参画センター横浜北の指定管理者及び設備管理会社とも定期的なミーティングを行う等、日ごろから密に連携を取りながら、効率的に運営しました。
		□センター横浜北・設備管理会社との「管理合同ミーティング」を開催	月3回以上	月3回以上 実施	B	□センター横浜北・管理委託会社である西田装美との3者による管理合同ミーティングを 毎火曜日に開催	スタッフ全員による実践的な防災訓練等によって、日々の防災意識を高めました。	
		■法令を遵守し必要な保守点検や測定の実施	実施	実施	-	■記載どおりに実施	エントランス部分の重篤な雨漏りを初め施設の劣化、故障が発生が見られ、逐次横浜市との情報共有し防水工事、天井パネル工事を実施しました。	
		■職員の日常的な目配りにより不具合の早期発見	実施	実施	-		【課題】 開館18年目を迎え施設全体の老朽化が深刻な問題となっている。不具合を早期に発見し対処する必要が今後益々増加すると予想されます。	

令和5年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

使命6 適切な維持管理を行い、法令を遵守することで、安全で快適な施設を維持する。予防的修繕にも着実に取り組む。	2	施設管理—専有施設について	●展示室の維持管理					【成果】 利用者の皆さんに安心・安全で快適な場を常に提供するために施設や設備の日常的な環境維持や予防的修繕対応に努めました。  【課題】 閉館18年目を迎え施設全体の老朽化が深刻な問題となっている。不具合を早期に発見し対処する必要があると今後益々増加すると予想されます。	【更なる取組を求める点】 ・引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。
			□壁面の塗装チェック、必要箇所の塗り直し	年1回	実施	-			
			□可動パネルの保守点検	年1回	実施	-	□展示室壁面の塗装チェック・必要箇所の塗り直し 年1回 □展示室可動パネルの保守点検 年1回		
			□可動パネルの消耗品交換、稼働状況のチェック、パネル壁面の補修	随時実施	実施	-	□展示室可動パネルの消耗品交換、稼働状況のチェック、壁面の補修/随時展示室貸出備品の点検・整備/随時高所作業車保守点検/年1回 ■不具合の発生には随時対応 ■修繕、保守点検を実施(専有部) ・1/25・31 展示室壁面塗装 ・12/18 収蔵庫空調サイリスタ交換工事(横浜市による)		
			□貸出備品の点検・整備	随時実施	実施	-			
			□高所作業車保守点検	年1回	実施	-			
			●アトリエの維持管理						
			□壁面のリタッチ	年1回	実施	-	■貸出附帯設備・音響設備の点検、整備/随時 □陶芸用電気窯保守点検 ・3/6定期点検、3/23強制停止による臨時点検 □土練機、パネルソー保守点検/利用状況により2年に1回 1回 ■修繕、保守点検を実施 ・2/21 アトリエ壁面補修		
			□附帯設備・音響設備の点検、整備	随時実施	実施	-			
			□陶芸用電気窯保守点検	年1回	実施	-			
			□土練機、パネルソー保守点検	2年に1回	実施	-			
			■その他(搬入口・荷捌室・作品保管庫等)						
□衛生設備(新ガス消火設備、連結散水設備等)保守点検	年2回	実施	-	■衛生設備(新ガス消火設備、連結散水設備等)保守点検/業務の基準の通り昇降機設備保守点検/業務の基準の通り					
□昇降機設備保守点検	月1回	実施	-						
3	横浜市内所蔵カメラ・写真コレクション(収蔵庫)	●収蔵庫内環境の維持					【成果】 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションについては、良好な状態で次代に引き継ぐよう、最適な管理を行いました。収蔵庫の温湿度を調整しているパッケージエアコンの制御機器(サイリスタ)を更新し良好な収蔵庫環境を維持できている。  【課題】 閉館18年目を迎え施設全体の老朽化が深刻な問題となっている。不具合を早期に発見し対処する必要があると今後益々増加すると予想されます。	【評価できる点】 ・適切に実施されています。	
		□通年で温度20℃±2℃、湿度50%±2%を維持	実施	実施	-				
		□pH値を定期的に測定し、結果に応じケミカルフィルター交換	年2回	実施	-	□通年で温度20℃±2℃、湿度50%±2%を維持 pH値を定期的に測定し、結果に応じケミカルフィルター年2回交換			
		□文化財喰害虫生息調査	年8回	実施	-	□文化財喰害虫生息調査/年8回実施 □担当学芸員ほか職員による定期的な清掃/月1回 □担当学芸員の立会いのもとに庫内の機器、設備の点検を実施/月1回 ■収蔵庫担当による日々の庫内点検実施(目視もしくは監視カメラ) □収蔵庫設備の保守点検 収蔵庫、展示室空調設備保守点検/年1回 ・9月/3月 パッシブインジケータによる測定、フィルター交換 ■地震発生時は即状況を確認し横浜市と財団に報告			
		□担当学芸員ほか職員による定期的な清掃 庫内の機器、設備の点検を実施	月1回	実施	-				
		■収蔵庫担当による目視あるいは監視カメラによる日常点検	実施	実施	-				
		□収蔵庫・展示室の空調設備の保守点検	年1回	実施	-				
		■コレクション作品管理、貸出、熟覧、画像提供	随時実施	実施	-	■コレクション作品管理貸出、熟覧、画像提供			

評価項目 R5年度計画 実施状況 評価

I 文化事業目標 指定管理者提案(要旨) 達成指標 目標 実績 説明 自己評価 行政評価

使命6 適切な維持管理を行い、法令を遵守することで、安全で快適な施設を維持する。予防的修繕にも着実に取り組む。	4	維持保全・修繕について	●計画的・予防的修繕の検討・実施 ■共有部:センター横浜北および設備管理会社と連携 ■専有部:今後必要となる修繕項目について検討し、1件60万円を超える事案に関してはモニタリング等を通じて設置者に情報共有・相談	随時	実施	-	■共有部:センター横浜北・設備管理会社と連携 ■専有部:今後必要となる修繕項目について検討し1件60万円を超える事案に関してはモニタリング等を通じて設置者に情報共有・相談 ■緊急を要する修繕 業務の基準に則り速やかに横浜市、関係各所へ連絡・報告を行う。運営に支障がないことを最優先に迅速な対応を検討、実施 ■エントランス天井の雨漏りおよび天井パネル交換工事を横浜市での負担で実施 ・7/19-9/15 屋上防水工事 ・8/28 パネル落下防止ネット敷設 ・10/30-11/2 エントランス天井パネル交換工事足場設置のための臨時休館 ・2/1-3/11 天井パネル交換工事のため臨時休館	【成果】 共有部、専有部、各所の修繕について男女共同参画センター横浜北協議の上、適切に対応しました。  備品管理においては、新規の備品管理シールの添付、画像データも保存し適正に管理しています。  【課題】 閉館18年目を迎え施設全体の老朽化が深刻な問題となっている。不具合を早期に発見し対処する必要があると今後益々増加すると予想されます。	【評価できる点】 ・年間を通じて適切な維持管理を実施した点を評価します。男女共同参画センター横浜北の指定管理者とも定期的なミーティングを行い、共有部、専有部、各所の修繕についても連携・協議上、適切な施設管理を行いました。  【更なる取組を期待する点】 ・男女共同参画センター横浜北の指定管理者と連携しながら、引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。
			●緊急を要する修繕 速やかに横浜市、関係各所へ連絡・報告を行う。運営に支障がないことを最優先に迅速な対応を検討、実施	随時	実施	-			
			●備品管理の適正化 ●物品台帳を補足する写真帳の導入検討	随時	実施	-	■物品管理票(シール)添付 ■物品台帳を補足するため写真データ簿作成 随時		
			■物品棚卸を実施し台帳と突合	1回	実施	-	□棚卸の実施 10月 1回		
			■横浜市ガイドライン等に準じたコロナウイルス感染症対策の徹底	随時	実施	-	■横浜市によるガイドラインに沿った対応 5類移行に伴い対応終了、入り口自動検温器と手指消毒液は継続設置 ■講座・ワークショップ参加費の支払いにキャッシュレス決済(クレジットカード・電子マネー・交通系マネー・PayPay)導入継続 ■来館者の怪我、急病や多目的トイレの緊急呼出等、異常発生があれば、センター横浜北・ギャラリーあざみ野の職員1名ずつが即時に急行し対応。		
			□館内での緊急時にスムーズに対応できるよう、スタッフの研修実施	1回	実施	-			
			■AEDの設置・管理	実施	実施	-	■救急要請にスムーズに対応できるよう、スタッフの研修を実施し、全員が研修受講済み。		
			■事故発生時の速やかに通報と、原因調査	随時	実施	-	■事故発生時の報告手順の見直し・徹底 3/19 陶芸用電気窯より発煙し消防・セコム臨場		
			●防火防災 センター横浜北、設備管理会社と協働して、アートフォーラムあざみ野自衛消防隊を組織	実施	実施	-	■センター北、設備管理会社とともにアートフォーラム自衛消防隊を組織 ・9/5 第1回 合同防災訓練、通報訓練 ・2/20 第2回 合同避難訓練、煙体験・水消火器訓練		

令和5年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

6	災害時対応一地域に頼られる公共施設として	<input type="checkbox"/> センター横浜北との合同防災訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 施設賠償保険に加入 <input checked="" type="checkbox"/> 作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険等については、当館が保険を契約	年2回	2回実施	B	■センター横浜北と協議し適切な施設賠償保険に加入 ■作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険等については、個別に適正な保険を契約 □帰宅困難者一時滞在施設マニュアルの配布に代えた ■記載のとおり実施 ■スタッフ全員が救急救命研修受講済み ■子どものアトリエ担当は乳幼児向け救急救命講習を受講 ■1F自販機1台を災害用ベンダーとして契約締結
		<input type="checkbox"/> 帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣施設と日常からネットワークを構築し、地区全体での防災力強化に努める <input checked="" type="checkbox"/> 飲料自動販売機1台に災害用ベンダーの導入継続	年1回	実施	-	
		<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画書・事業報告書の作成・提出 <input checked="" type="checkbox"/> 日報・月報の作成、月間業務報告 <input type="checkbox"/> モニタリングの開催 <input type="checkbox"/> 業務評価(自己評価)	実施	実施	-	
		<input type="checkbox"/> モニタリングの開催 <input type="checkbox"/> 業務評価(自己評価)	月1回	実施	-	
		<input type="checkbox"/> 業務評価(自己評価)	実施	実施	-	
		<input type="checkbox"/> 業務評価(自己評価)	実施	実施	-	
		<input type="checkbox"/> 業務評価(自己評価)	実施	実施	-	
		<input type="checkbox"/> 業務評価(自己評価)	実施	実施	-	
		<input type="checkbox"/> 業務評価(自己評価)	実施	実施	-	
		<input type="checkbox"/> 業務評価(自己評価)	実施	実施	-	

評価項目		R5年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
施設運営及び組織運営	1 専門職員、管理・運営職員ともに適切な人材を配置	<input checked="" type="checkbox"/> 人材配置 館長:1人、副館長:1人、職員:8人、 臨時職員:3~5人	配置	配置	-	■記載どおりに配置	【成果】 記載のとおりを実施しました。	【評価できる点】 ・適切な人材の配置、効率的な勤務体制の実行により、安定した施設運営が継続された点を評価します。
	2 適切かつ効果的な勤務体制を確立	<input checked="" type="checkbox"/> 勤務体制 早番(8:45-17:30)2名 遅番(12:30-21:15もしくは11:00-19:45)2名 <input checked="" type="checkbox"/> 事業や貸館の繁閑に応じたシフトを組み、ワークライフバランスに配慮した勤務と効率的な運営を両立 <input checked="" type="checkbox"/> リモートデスクトップを活用した在宅を含む新しい勤務体制の導入	実施	実施	-	■記載どおりに実施	【課題】 引き続き、職員の能力にあった業務内容や業務量の調整を注視し、ワークライフバランスに配慮していきます。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 館長・副館長不在時の代行者を定め、責任体制を明確化	実施	実施	-	■記載どおりに実施		
		3 切れ目のない責任体制の維持	<input checked="" type="checkbox"/> 館長・副館長不在時の代行者を定め、責任体制を明確化	実施	実施	-	■記載どおりに実施	
必要人材の配置及び能力担保	1 専門職員、管理・運営職員ともに適切な人材を配置	<input checked="" type="checkbox"/> 適切に配置	実施	実施	-	■記載どおりに配置	【成果】 記載のとおりを実施しました。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 事業系及びコレクション担当:美術に関する専門教育を修め、学芸員資格を有する職員または鑑賞・造形教育エデュケーター、もしくは両者を志望する職員を配置 <input checked="" type="checkbox"/> コレクション担当:写真・映像を専門とする学芸員を配置 <input checked="" type="checkbox"/> 全国美術館会議に加盟し研修参加、情報交換 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者研修会等を通じての横浜市の施策への理解・共有をはかる <input checked="" type="checkbox"/> 財団コンプライアンス委員会の情報を共有し、職員・スタッフのコンプライアンス意識を強化 <input checked="" type="checkbox"/> 感染症予防対策の徹底	実施	実施	-	■記載どおりに配置		
		<input checked="" type="checkbox"/> 全国美術館会議に加盟し研修参加、情報交換 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者研修会等を通じての横浜市の施策への理解・共有をはかる	実施	実施	-	■記載どおりに実施 ・3/6-7 教育普及部会研修参加 2名		
		<input checked="" type="checkbox"/> 財団コンプライアンス委員会の情報を共有し、職員・スタッフのコンプライアンス意識を強化 <input checked="" type="checkbox"/> 感染症予防対策の徹底	実施	実施	-	■記載どおりに実施 ■5類移行により終了		
		<input checked="" type="checkbox"/> 個人情報は規程及びマニュアルに基づき適切に取り扱います。	実施	実施	-	■記載どおりに実施		
		<input checked="" type="checkbox"/> すべての人に開かれた施設として公平・公正な施設運営のため、人権尊重の取組みを大切にしま <input type="checkbox"/> 横浜市主催の人権研修に参加し、施設内で共有	随時	実施	-			
	横浜市的重要施策を踏まえた対応	3 人権尊重	<input checked="" type="checkbox"/> すべての人に開かれた施設として公平・公正な施設運営のため、人権尊重の取組みを大切にしま <input type="checkbox"/> 横浜市主催の人権研修に参加し、施設内で共有	1回	実施	-		・12月「ハラスメント防止講座」受講 ・12/27, 1/19, 2/21横浜市主催人権研修オンライン受講 3名
		4 環境への配慮	<input checked="" type="checkbox"/> ゴミを適切に分別、排出量を抑制/ゴミの持帰り原則を徹底 <input checked="" type="checkbox"/> 電気・ガス使用量については、換気によって空調運転量が上昇するためを極力抑制を目指す	実施	実施	-		■記載どおりに実施
			<input checked="" type="checkbox"/> 電気・ガス使用量については、換気によって空調運転量が上昇するためを極力抑制を目指す	実施	実施	-		■記載どおりに実施
		5 市内中小企業への優先発注	<input checked="" type="checkbox"/> 物品購入、委託 アーティスト指定、市外業者のみが取り扱う業務を除き、市内業者への発注に努める	実施	実施	-		■記載どおりに実施

令和5年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R5年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
カメラ・写真コレクションの適切な収蔵、保管	貴重なコレクションを良好な状態で次代に引継ぎ、最大限活用するために、適切な収蔵、保管にあたります。	●収蔵庫内環境の維持	温度20℃±2℃、湿度50%±2%実施	実施	-	■記載どおりに実施	【成果】記載のとおりを実施しました。収蔵庫の温湿度を調整しているパッケージエアコンの制御機器(サイリスタ)を更新し良好な収蔵庫環境を維持できている。  【課題】開館18年目を迎え施設全体の老朽化が深刻な問題となっている。不具合を早期に発見し対処が必要が今後益々増加すると予想されます。
		■pH値を定期的に測定し、結果に応じたケミカルフィルターを設置	実施	実施	-	■記載どおりに実施	
		□文化財喰害虫生息調査	年8回	8回実施	B	■記載どおりに実施	
		□庫内点検、定期的な清掃を実施	月1回	実施	-	■記載どおりに実施 □庫内点検、定期的な清掃を実施 月1回	
		●専門機関との連携	実施	実施	-	■記載どおりに実施	
		■日本カク博物館、横浜美術館、東京都写真美術館等と情報交換を行う	実施	実施	-	■記載どおりに実施	
		■全国美術館会議で実施される専門研修に参加し情報交換の機会を得る	実施	実施	-	■全国美術館会議に参加し情報交換	
事故防止策・緊急時(防犯)の対応、防災に対する取組	1 アートフォーラムでは、全職員(横浜市民ギャラリーあざみ野、センター横浜北、管理委託会社)が、日常的に危険箇所や不審者を早期に発見し、対処します。  2 緊急時には「利用者の安全第一」と「迅速さ」を基本方針として対応します  3 防災の取組みとして、自館の防災はもちろん近隣の防災拠点としての役割も担います。	■各種マニュアルの必要に応じた見直し・更新	随時	実施	-	■記載どおりに実施/更新なし	【成果】記載のとおりを実施しました。  【課題】施設の維持管理に関する課題は前述のとおりですが、災害対応は平日からの心構えが重要なため、訓練時以外でも月次ミーティングなどの機会を通じ注意喚起していきます。
		■危機管理マニュアルを見直し必要に応じて更新	随時	実施	-	■記載どおりに実施/更新なし	
		■常に全職員がマニュアルを理解している状態をめざす	実施	実施	-	■記載どおりに実施	
Ⅳ収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 利用料金設定及び割引、減免の考え方	1 展示室・アトリエともに、現在の利用区分(単位)・料金が定着しているため、従来の設定を踏襲します。  2 割引、減免制度については、横浜市民ギャラリー条例・同施行規則に従って運用します。	■従来の料金体系に沿った利用料金設定を継続	実施	実施	-	■記載どおりに実施	【成果】記載のとおりを実施しました。  【課題】
		□横浜市主催事業:50%減免	実施	実施	-	■記載どおりに実施	
		□横浜市共催もしくは実行委員会に参加する事業:30%減免	実施	実施	-	■記載どおりに実施	
		□ギャラリーあざみ野共催及び協力事業:主催者との協議により30~100%減免 ■アトリエ利用の夜間割引・学生割引	実施 継続実施	実施 実施	-	■記載どおりに実施	
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	1 自主事業の一部については、指定管理料を充当せずに行います。  2 利用料金収入を安定的に確保します  3 助成金・協賛金、現物協賛の獲得	■指定管理料を充てず収支ゼロで行う自主事業クローカーを中心とした市民プログラム講座	8本	5本実施	C	□市民のアトリエ事業 5本実施 収支プラスで執行	【成果】記載のとおりを実施しました。市民のアトリエ事業に関しては、収支バランスがプラスになるよう企画・執行しました。事業に対する助成金は1件が採択されました。臨時休館によるフォトアニュアル中止のため野村財団への申請は見送りました。  【課題】社会情勢により人件費、修繕費が大幅に上昇し経費を圧迫しています。今後の施設運営、事業の遂行にますます大きな影響が考えられます。
		□展示室およびアトリエの利用料金収入	8,000千円	施設利用料 ¥6,780,700 駐車場利用料 ¥3,202,300	□利用料金収入(施設・駐車場等) ・施設利用料 6,780,700円(未達) ・駐車場利用料 3,202,300円 ・自動販売機手数料 446,890円		
		□外部助成金申請件数	3件以上	1件	C	□事業に対する助成金採択2件(申請2件) 計2,641,000円 ・文化庁・芸術文化振興基金 ※企画内容変更により取り下げ 1,000,000円 ・文化庁・障害者等の文化芸術活動推進助成金 1,641,000円 ・フォトアニュアル中止により野村財団への申請は見送り □民間企業への美術ワークショップの研修提供による収入 1件 ・古河電工パワーステムズ樹 100,000円 □寄付金 0件 □情報誌「アートあざみ野」広告掲載料収入 2件 90,000円	
3 経費削減等効率的運営の努力	4 経費削減・効率的運営の努力	■センター横浜北と協力し、施設管理委託費を適切に管理	前年度並み	実施	-	■記載のとおり努力	
Ⅵ PDCAサイクルの確実な運用	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 PDCAサイクルの基本指標となる日報、月報の作成・管理を確実に実行します	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理を行います	□業務日報の作成(再掲)	休館日除く毎日	実施	-	■記載どおりに実施	【成果】記載のとおりを実施しました。  【課題】
		□月次報告書の作成・モニタリング実施(再掲)	月1回	実施	-	■記載どおりに実施	
		□事業計画書・事業報告書の作成(再掲)	1回	実施	-	■記載どおりに実施	
3 業務評価を実施します	□完了報告書の作成	1回	実施	-	■記載どおりに実施		
	□自己評価(仮決算含む)	年1回	実施	-	■記載どおりに実施		
Ⅶ その他	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 市民の生命と安全を守ることを第一義として、適切な保険に加入し、万が一に備えます。  2 関係法令を順守し、公的機関としての役割を果たします。  3 よりよい市民サービスの提供を目指し、市及び関係機関との連絡調整を行います	■施設設備賠償保険への加入(応分負担)(再掲)  ■作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険契約については個別に契約  ■現行の関係法令を順守するとともに、法令改正に注意  ■事故や不具合時は速やかに横浜市・財団事務局に報告し共有	実施	実施	-	■記載どおりに実施	【成果】記載のとおりを実施しました。  【課題】	
		実施	実施	-	■記載どおりに実施		
		実施	実施	-	■記載どおりに実施		

令和5年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】 アフターコロナの在り方を模索しつつ、効果的な事業執行および施設運営を目指し、第4期指定管理提案に掲げた「6つの使命」に沿った事業を、特色を打ち出しスタートできました。</p> <p>本年度、注力した取り組みとして、文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」助成金による「認知症の方とその家族・介護者のための対話型鑑賞会」が挙げられます。前年度から取り組みをスタートさせ、今年度が2年目となりますが、前回の振り返りを活かし、2回の紹介と体験会、専門家による座学講座を2回、また全3日間のサポーター養成講座を開催後、「やさしい美術鑑賞会」を2回、行いました。サポーター養成講座には、財団内の美術系施設だけでなく舞台系施設職員の参加や、横浜市職員、他都市美術館からの視察があり、この事業に対する社会的な関心度の高さにあわせて事業を開催する意義を強く感じました。</p> <p>当館らしさを特長づける3つの企画展については、「あざみ野コンテンポラリーvol.14」「あざみ野こどもぎやらい2023 そうけいらぼ」では目標来場者数を上回り来場者の満足度も高かったと実感しています。「あざみ野フォト・アニュアル2024」は、残念ながら臨時休館のため来年度へ繰り越しとなりましたが、入念に準備を重ねより良い展覧会にしていきたいと考えています。また、映像文化の発信として開催する小学生写真ワークショップでの教育機関との連携、プラットフォーム事業における地元企業との連携、その他北部文化施設など周辺地域との良好な関係を築くことができました。ひきつづき関係の深化と拡大に努めていきたいと考えています。管理面では漏れない運営に努力しました。施設内の大きな修繕案件についても滞りなく遂行できました。</p> <p>【課題】 前述しました通り以下の2点が今後の最も大きな課題と考えます。 ・社会情勢により人件費、修繕費が大幅に上昇し経費を圧迫。今施設全体の老朽化。そのための迅速な対応と資金</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策も考慮しながら、あざみ野という立地や地域特性も活かした企画を通して、地域の皆さんに身近な場所で文化芸術の活動の機会や発表の場、鑑賞の機会を安定して提供できました。</p> <p>工事による臨時休館により、カメラ・写真コレクション展「あざみ野フォト・アニュアル2024」は中止となりましたが、データベースのWEB公開や、WEB展覧会「みどころキューブ」を活用した市所有のコレクション周知、小学校等でのアウトリーチを行うなど継続した取り組みを行いました。</p> <p>また、臨時休館に伴う利用者へのキャンセル・返金等の対応についても、丁寧に対応したことで大きなトラブルなく利用者にご理解いただけました。その他2つの企画展「あざみ野コンテンポラリーvol.14」「あざみ野こどもぎやらい2023 そうけいらぼ」は、ともに目標来場者数を上回り、来場者の満足度も高い企画内容となりました。</p> <p>今年度注力し取り組んだ「障害者等による文化芸術活動推進事業」は、関係施設や団体との連携を強化し、「認知症の方とその家族・介護者のための対話型鑑賞会」プログラムを企画実施できました。多くの方への理解が得られるよう、実施手法等さらなる検討を進めていくことを期待します。</p> <p>また、SNSを活用した広報やYouTubeでのアーティスト紹介を掲載するなどウェブ上での情報公開を積極的に行いました。WEB展覧会「みどころキューブ」については、アクセスログを分析し、分析した結果を今後の活動や事業へ活かして行くことを期待します。</p> <p>今後も効果的な周知方法を検討・実践しながら、これらの活動を継続・深化することで、文化芸術を通じたコミュニティの活性化に資することを期待します。</p> <p>施設運営では、男女共同参画センター横浜北と日ごろから情報共有や連携を図り、複合施設としても適切な維持管理を行うことができました。</p> <p>施設の特性を活かした魅力ある事業と、安定した施設運営を継続するとともに、第4期指定管理期間最終年度に向けて、これまでの指定管理者選定評価委員会や行政評価における指摘をふまえた、運営の向上に引き続き取り組んでください。</p>